

# 高 崎 志 中

復刊版



群馬地域文化振興会

高崎志卷中

高崎 川野邊寛纂述

連雀町 レニシヤクテラ  
雀一  
作又

連雀町ハ初箕輪ニアリ慶長三年戊戌箕輪ヨリ此ニ移ル箕  
輪ニ於テ大手門前ニ在ニ町ナルヲ以此ニ移リテモ亦城主ヨリ命  
大手門前ニ置テ舊名ヲ不更ト云名義未詳昔ハ四方ヨリレニシヤク斂著  
用テ物ヲ負来テ城下ニ賣者ヲハ毎年一度此町長制レニシヤクアリテ錢ヲ  
征トルテアリ土俗コレヲ斂著運上下號コレスカルイ今ハ無之箕輪ニ在ニ時  
ヨリ此事アリ故ニ斂著町ト称ス斂著俗ニ連尺ニ作ル今連雀



字ヲ用フルハ其本ヲ不考ノ身ノ名ヲ以テ安ニ改ル也ト古老云リ然

ト他ノ城下ニモ亦此名アリハ猶不審也昔此町ノ長貝發新兵衛

堀口務右衛門ト云レハ箕輪ノ豪家也故此ニ徙リニ後モ城主ノ

命ニヨリテ二人領内村里ノ長ノ上ニ居リ当町ノ地子ヲ免サレ

地子ノ種古ヨリ有之唐書食貨志ニ出  
タリ此方ニテハ弘仁式ニ見ヘタルヨ始ナルキ 同五年関原御陣ノ時ハ

城主ヨリ鎗及數具足等ヲ分屬シ此地ニ變アラハ城下ノ民兵

ヲ率テ留守ノ下知ニ後ツヘトナリ今ニ至ル迄此町ヲ總所ノ茅

一ニ置此町ノ役人ヲ總所役人ノ上ニ居セシムルハ此等ノ子細

故トソ井伊直政關ケ原ニ在テ貝發堀口二人ニ賜リシ黒印ノ

ノ谷傳（テ今ニアリ）

此所ハ昔ヨリ驛場ニラス又客舎モナクシ共敷地モ廣ク大  
ナル家造リモアリシ故往來ノ諸大名モ休泊セラレトナリ因  
テ本陣トハ呼ビト也其後今ノ年寄福田某カ先祖世ニ本  
陣ヨツトノ来リシヨ敷度火災ニ遭テ家作モ津ツク小ク且城  
主ヨリモ倉賀野ニ本陣アシハ事コトズルトテ終ニ城下ニ本陣  
ヲ置シスサレ氏今猶玄關座敷ヲ構カ（諸ノ族城下ヲ經過セ  
ラル、時ハ城主ノ使者等此ニ出向ヲフ應對スル也故ニ主人ハ今  
本陣ト呼フ

此町ハ東西ノ町ニ昔ハ大手門前ヨリ今ハ外形木戸間ヲ一  
町目トシソレヨリ東大道ノ間ヲ二町目トシ又ソレヨリ東通所  
境ニ至ル迄ヲ三町目トス通所ハ昔ノ本道ニ此所ハ城中ヨリ  
通所ニ出ル大道也今ノ本道ヲハ其頃ハ横町ト呼ビ也寛  
文九年己酉 城主安藤右  
京進重長 城内狹クトテ新ニ外郭開カル其  
時一町目ノ人家ヲ他ヘ移シ其地ヲ家ノ宅地トス享保十二年  
丁未火災ノ後城内火除ノ為ニ空地トス今俗ニ廣小路ト云  
大手門通ニ並ヘル商家ニ清潔ナル物ヲ賣買スルキヨシ昔  
城書リ命セラル固テ多ク下仁田紙 当国下仁田ニテ所製 ヲアキナフ故ニ

此紙ハ他所ニ於テ躑躅クイヲ禁セラル但狹糸トテ疊テ行ニ狹  
舗ニ挂テ賣往来ノ旅客ニ使スルハ此限ニアラストリ

此地高崎ノ中央ナレバ慶長三年城下所割ノ繩張アリニ取  
最初ニ此町ノ所居ヲ定メ其ヨリ南北總町地割ヲナセト也  
其時標ニ立タル大石迄キ頃迄衢ノ北角ニアリ此町ヲ中央ト  
定ル故ニ北方田所ニテハ南ヲ上下ニ南方新町ニテハ北ヲ上ト  
スルナリ

道祖神宮 昔四辻ニアリト云今ハ見ス土人云今石原觀音  
堂ノ後山上ニアル宮是也ト遷セル年月不知

神明宮 田町ノ境西頬カハニアリ伊勢西宮ヲ祭リ遙拜所ヨウバイ

トス土入伊勢殿ト稱ス六月九月十六日十七日ヲ祭日  
トスイツノ頃ヨロヨリ祭リニヤ年月不知

此町ニ傳タル古キ記録等數度ノ火ニ焼ヒホウニ又散失ノ今可  
証モノナシ本町ニ存スル舊記キウ及里老ノ傳統ヨウ據テ其梗既ホラ  
記スルノミ

### 田町

田町ハ連雀町ノ北ニ續ツケリ是モ慶長三年此地ニ徙糞  
輪ニテハ田宿ト云ヒ故舊名ニ因テ田町ト名ツク同七年壬寅

正月ヨリ中山道ノ傳馬役ヲツトムルサレ共継場ハ舊例ニ  
ヨリテ本所ニテツトム同年八月ヨリ地子ヲ免サル寛永九  
年壬申始テ問屋場ヲ本所田所新所三所ニ分シヨリ  
以来一月ヲ三分本所ニテ十四日田所ニテ八日新所ニテ八日ツトム  
ル也又毎月五十ノ日市アリ此市ニ限テ絹綿賣買アリ  
元禄三年庚午八月ヨリ他所ニテ賣買スルコトヲ領主ヨリ  
禁制セラルルカ故也

木所 此所一所目ノ内鞘所ニ入小路ヨリ連雀町境ノ間ヲ  
去昔ハ近キ山里ヨリ薪ヲ負来テ此所ノ中舗ニ貯高ル



故ニ土人名ツクルトナリ

慈上寺 東カハ類カハアリ 普フ化ケ禪宗ノ虛コ無ム寺也 金剛山

ト号ス今ハ無住也 本尊釋迦ノ木像アリ 寺記後深

草院ノ御宇 建長二年 庚戌八月 紀州由良湊ミナトコナコナ興國

寺ノ開山ホフトウ法燈禪師ト同船ニテ來化セシ寶仗居士ヲ

元祖トシ 相州三崎ニテ宗和派ト号シ 其後二十代法

嗣湛光風車カ時箕輪城主長野信濃守業正ナリマサ招

ニヨリテ箕輪ニ來ル 比時根笹沓ト改メ 田宿ニ住セシカ

關決道無代慶長五年 庚子此ニ移ルトアリ 室曆

辛巳ノ夏ヨリ武州青海鈴法寺総州小金一月寺  
ノ觸下トナリ箕輪ニ在リ時ヨリ大雲寺在九歲町見下條ノ菩提  
所トス虛無寺ヲ世ニ風呂屋ト云フハ諸國虛無寺湯  
風呂ヲ建遠近ノ人ヲエラマス浴セシムル故也是ハ

公義御尋ノ罪人トアル例此宗ハモ仰付アル、故  
浴室ヨクニツヲ設テ諸人ヲ浴セシメテ或ハ弟子ヲ諸國アニキヤニ行脚セ  
シラテ其罪人ヲ搜サガシシモトモト此寺ニ古キ春モアリ

寺寶

藥師木像一軀 作者未詳古作也

普化禪師畫贊一幅 筆者不知古物也相州ヨリ傳

来スト云

兜鉢一頭 明珍吉家作

以上

西小路一町目ヨリ朝所ニ出ル

東小路一町目ヨリ白銀所ニ出ル

古著所ハ一町目ヨリ中紺屋所ニ出ル小路也元文ノ頃ヨリ

故キ衣服ヲ賣買スル者多ク故ニ近年此名アリ

市神宮 古著所ニ入南角ニアリ 檜皮葺東向也所奉祇

園牛頭天王此宮元ハ石祠也北月延徳三年亥年六  
月十日トキリ付テアリト云今ハ宮中ニ造リコノル故  
見ハス寛政巳酉迄三百年也享保十七巳年十  
一月今ノ宮ヲ造立ス神體ハ秘<sup>ヒ</sup>ノ見ル人ナシ所中持シ  
別当ハナシ祭日ハ南所愛宕別当龍宝寺ヲ請テ  
法樂ス毎年正月十日初市六月十日祇園會祭也曲  
中藏ヲ立相集テ鼓吹<sup>ユスイ</sup>之又サマシノ造リ物ヲ出シテ壯<sup>ヒヤウ</sup>

觀<sup>カシ</sup>トス

東小路本緋屋所出ル